

会 議 録

| | |
|-----------------|---|
| 1 会議名 | 第6回南砺市男女共同参画推進審議会 |
| 2 議題(公開) | <p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 講話 「南砺市男女共同参画推進プラン 見直しにあたって」 南砺市政策参与 須河 弘美氏 「第5次富山県民男女共同参画計画の策定について」 富山県女性活躍推進課長 荻浦 明希子氏</p> <p>4. 付議事項 南砺市男女共同参画推進プラン(第2次)の改正(案)について ・成果目標指標(P47～P50)の加除修正、R8(R6)年度に向けた目標値の確認 ・南砺市男女共同参画推進プランに足りないポイント</p> <p>5. 副会長挨拶</p> <p>6. 閉会</p> |
| 3 開催日時 | 令和5年1月17日(火) 開会時間:午後7時/閉会時間:午後9時10分 |
| 4 開催場所 | 南砺市役所 本館4階 401会議室 |
| 5 会議出席者 | <p>[市政策参与] 須河 弘美</p> <p>[委員:出席13名/全14名] ※50音順 安達 望、岩井 透、浦井 啓子、大坪久美子、河合 香織、近藤 隆志、佐竹 弘昭、 谷口 恵、藤井 篤子、水木 宏一、水口 幹夫、渡邊美和子、和田 弘恵</p> <p>[委員:欠席1名] 橋爪 央樹</p> <p>[市:出席3名] 事務局 南砺で暮らしません課 課長 船藤 統嗣 " 女性活躍・婚活支援係 係長 高堂 清美 " 協働のまちづくり係 主事 得能 基史</p> |
| 6 傍聴者 | 4名 |
| 7 会議記録 (1)開会 | 午後7時00分 |

| | |
|-------------------|---|
| <p>(2) 会長あいさつ</p> | <p>昨年まで5回の審議会を開催し、1回目には須河さんより講演いただき、委員皆さんの言いたい議論がまとまってきて、4回・5回審議会では大分議論が活発に行われていた。私も回を重ねながら審議会として議論が活発に行われていることを好ましく思っていたが、一番初めに須河さんから頂いた高い目標、着地点を心に決めてスタートしたにも関わらず、どのように着地にすればいいのか、4回・5回ぐらいは悩みでもあった。私自身の力不足と認識の低さを大変反省している。</p> <p>一方で、「南砺市らしさ」という言葉は曖昧なので使わない、やめようと言いながら、そこは一致していたにもかかわらず、4回・5回審議会の議論では南砺市に住む私たちの南砺市らしさ(優しさ)が出たようだ。悪い意味ではないが、もう少し決意を新たに、南砺市の男女共同参画を推進していくために今一度、見直してやっていくべきではないかと大変反省している。</p> <p>これまで議論し、大体皆さんの思いのたけを全部出していただいたので、今回、須河さんに来ていただいた。県の流れ(第5次計画の進捗)もお話いただくことで、私たちの使命を見直し、今までの議論をもとにいい形にしていかなければいけない。今日はお忙しい中、たくさん出席いただいたので、ぜひ気持ちを共有して、最終の形にもっていくためのいい回(会)にしたい。</p> |
| <p>(3) 講話</p> | <p>南砺市政策参与 須河 弘美氏より「南砺市男女共同参画推進プラン 見直しにあたって」についてお話しいただいた。当日の講話内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論で気になった点について、議論に入る前に整理をしていきたい。 ・第1回の審議会での講演を契機に男女共同参画分野の南砺市政策参与の就任依頼を受け、政策参与という肩書のもとで活動している。南砺市の男女共同参画に深く関わって、我がまちへの恩返しをしていきたい。 ・審議会の第1回から5回までの議事録を読んだ。大変熱心な議論が重ねられている。第1回で私が問題提起をした「南砺市らしさ」という点について、男女共同参画にとって必要な概念なのかを熱心に議論していただいた。「南砺市らしさ」の着地点はいい形になっている。 ・スケジュール的にはそろそろまとめに進んでいかなければいけない年度末に近づく時期 ・市当局にとって今から言ってもらっても困る部分もあるかと思うが、取り入れるかどうかはともかく、皆さんの議論があと数回、活発に行われるためにお話ししたい。 <p>【南砺市アンケート（令和4年6月 若者・子育て世代235名より回答）】P2～P4</p> <p>(1) 不平等感 (2) どのような変化が必要か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由回答で回答を集められた魅力的なアンケート ・普通のアンケートは数字でまるめるが、生の声を集めた画期的なアンケート <p><1 家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じように働いているのに、女性だけ家事・育児をしていることへの女性の不満が強く表れている。 ・女性側の大変深刻な意見、大変悲痛な声である。 <p><2 職場></p> |

・性別によって与えられる役割が違うこと、また男性の育児に対して理解が低いことへの不満が男女双方から示されている。

<3 地域>

・地域での性別役割分担意識については第1回の会議でも話題にあがっていた。そこを変えるのは難しいと言いながら、やっぱりいろいろな不満がある。

・地域での性別役割分担意識が強固なのはアンケート結果からも分かる。

・獅子舞は男女の役割分担が強く表れている。

・古い考えの高齢者には考えを変えるか引退をしてほしいとの意見。地域の悲鳴が表れている。

< 南砺市アンケートまとめ >

・アンケートの対象は若者と子育て世代で、これだけたくさんの子育て世代の悲鳴が溢れている。

・子育て世代の不幸せ感が強い地域で大丈夫なのか、不幸せ感があるところに若者が帰ってきて、子どもを産むのか、がアンケートに正直に表れている。

・これだけ正直な意見を集められたのは今回初めてなのではないか。いいアンケートが行われていて、皆さんもそれを受け止めて議論しているが、この悲鳴に今の見直しの方向で応えられているのか。

・今回は「一からの改定ではなく、見直したから」、その方針で議論が進められてきていることも影響はしていると思われる。

・もう少し子育て世代・若者の心に刺さるような、私たちは悲鳴を上げたが、このプランが実行されていけば、自分たちの生活も変わるのではないかと期待が持てるものに少しでもならないか。

【審議会議論の方向はこれでよいか、「刺さる」表現】P5～P6

○子育て世代の「悲鳴」に応えられているか

→もっと若い人たちに「刺さる」表現が必要

→市民が自分事と認識し、危機感を持って、今日からの行動を変えるには

○国・県の計画改定を踏まえているか

→国・県の改定ポイントは社会情勢の変化を反映している

・現在のプランに引用されている国と県の計画は、国の第4次計画、県の第3次計画となっている。今は、国は第5次計画を、県は第4次計画を進めていて、さらに県は第5次計画を策定中の段階となっている。

・議論の中でも「何も国や県から出てくる情報の通りでなくてもいいのではないかな」などの意見もあったが、計画の改定はその時その時の社会情勢の変化が織り込まれ、その時その時問題となっていることが改定のポイントとして盛り込まれている。

・これまでの審議会での議論は皆さんの生活実態の中からいろいろなことを話し合われて、正直な声を積み重ねてこられた。国や県のその時々々の改定ポイントを入れた形で社会情勢を組み込み、チェックを掛けていった方がいい。

・大分手探りの状態で議論しているので、国や県の改定ポイントを少し参考にして、南砺市ではこの点についてはどうなのか、を議論のたたき台とした方がいいものにはできないのではないかな。

○「前文」の取り扱い

・前文について熱心に議論されている。審議会として改定に関する前文を作り、プランの冒頭に入れた方がいいのでは、と文章そのものも熱心に議論されている。いろいろな人の意見を取り込み、練り上げられ、とてもよい文章になっているので活かしていくべき。

・プラン策定の主体は「南砺市」。今のプランの冒頭にも市長のメッセージがまず載っている。市長のメッセージは今回載せない、と市当局からの説明もあったが、市としてどういうつもりで改定したのかを市長のメッセージとして、プランの冒頭には載せるべきではないか。

・審議会としてこれだけ議論をして、前文が練り上げられ、その考えのもとに議論しているわけだから、ぜひ答申の時にこの文章をきちんとつけて、審議会としてはこのつもりで改定しましたを示すべき。そして、プランの後ろの方に資料をつけるところがあるので、男女共同参画審議会の答申の前文があり、こう見直しましたと資料として残すべき。

・審議会の答申とは別に、市長からの心構えは一旦表明してもらうべき。

・市長が年頭の富山新聞で「女性活躍の環境を整備」という見出しで「女性活躍やジェンダーギャップ解消、地域の魅力向上に取り組んでいかなければいけない。」とインタビューで述べている。

記事：「意識改革と機運を醸成させ、南砺市のイメージアップを図っていきます。」

・市長も力が入っているのだから、ぜひ見直しにあたっての市長のメッセージを冒頭に載せ、皆さんが熱心に議論した前文もきちんとどこかに残す形でつけられるのが良い。

○審議会は市にとって正しい「外圧」になれているか

→現実への配慮に陥っていないか

・あまりにも物分かりがいい。もっと勝手なことを言ってもいい。自己規制が働いている。市が困る、地域で定着しない、と予め考えてしまっているのが残念。

・もっと尖ったことや不満などを言ってもいい。現実の市民サービスに落とし込んだ時にどうなるかを考えるのは、市当局の次の段階の仕事。

・困ったことでも幅広く言って、市にとっての正しい外圧に。始めから現実に合わせてしまうと、市の仕事はそれよりも小さくなってしまう。ここは幅広く言う貴重な場

< 「刺さる」表現 >

・第5回の議事録で気になった点、「マイルドに」「やわらかく」「ことさらに」「女性」「男性」と強調しないで、となるべく穏やかに表現しようとする傾向がある。

・人の心に刺さって、自分のことを言われていると危惧を持ち、今日から行動を変えなければと思うような表現にしないといけない。

・あまり柔らかくマイルドに言うとみんな他人事になり、自分は変わらなくてよいと思うし、世の中も変わっていかない。

【国計画(第5次)・県計画(第4次)・県計画(第5次)の改定ポイント】P7～P9

国計画(第5次) R2.12 閣議決定

■政治分野における女性の参画拡大

■男性育休取得率の向上

■女性の視点からの防災の取組み促進

・女性に対して〇〇、男性に対して何を求めるか がはっきりと書かれている。

県計画(第4次) H30.3 策定

■働き方改革の取組み充実

■男性の家事・育児・介護参画

・課題として急浮上してきたポイント

・男性の家事・育児という言葉が石井前知事の口から出た時は非常に驚いたし、これを盛り込んだことはかなり画期的であった。

県計画(第5次) 現在策定作業中

キーワード

■意思決定過程への女性の参画

■男性の家庭進出

■女性が経済的に自立できる環境づくり

■アンコンシャス・バイアスの解消

■多様な暮らし方が尊重される組織・地域

・前の計画から異なるポイントを意識しながら、南砺市ではどうかと議論していく。

【アンコンシャス・バイアス】P10～P11

↑男女共同参画の分野で注目されているキーワードの1つ

《無意識の思い込み》

差別するつもりはないが、「男はこんなもんでしょ」とか「女はこうの方が幸せだよ」と知らず知らずのうちに決めつけている(/よかれと思って人にアドバイスをしている)

女性と男性を分けて考えている(/扱っている)意識

・無意識のうちに人に押し付けていること

・これを無くしていくことが最近の大きな課題

《アンコンシャス・バイアスの例》

直接言われたり聞いたりしたことがあるものを整理したもの。気持ちに引っかかったもの。男女とも経験したもの、あるいは、女性だけ男性だけ引っかかったもの

男女両方で引っかかったものとして

男性の「1位:男性は結婚して家庭をもって一人前だ」

「2位:男性は仕事をして家計を支えるべきだ」

男性だけが引っかかったものとして

「3位:デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」

「4位:男性は人前で泣くべきではない」といったものがある。

女性の上位では「1位:女性は感情的になりやすい」

「2位の女性には女性らしい感性があるものだ」

女性だけが引っかかったものとして

「5位の受付、接客・対応は女性の仕事だ」

「7位の職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い」など

- ・聞いたことがある、言ったことがあるが、差別をしているつもりではない、という事柄
- ・数字を見るとほとんど女性の方が割合が高く、女性の方が気持ちへの引っかかりを多く感じている。
- ・どれも少し前なら当たり前だった物言いで、高齢者にとっては今も当たり前のことで、何が悪いのか全く分からない。「あなたのためを思って言っている」など、一見温かい、ゆるい偏見。これが実際生活している女性を縛り、苦しめていることが、課題となっている。
- ・男女共同参画は、世界レベルでの緊急の取組みとして進んでいて、日本に直輸入されている考え方がいくつかあり、横文字を使ったほうが説明しやすい場合がある。

【アファーマティブアクション】P12

《積極的格差是正措置》

- ・マイノリティ(少数派)が過去に受けた、教育などに関する差別をなくそうとする取組み
- ・女性は半分いるので、マイノリティではないが、実際に差別をされてきた歴史がある。地位や力が弱い、昔から差別されてきたことによって力が劣っている部分に少し下駄をはかせ、その差を埋めるのがアファーマティブアクションである。
- ・第5回の議論で気になった点、「女性男性とことさらに強調しなくて」とか、「女性対象だけに取り組むことは逆差別ではないのか」という発言がみられた。
- ・女性と男性は現在の社会における地位、発言力を見ても明らかな落差があり、それは否定できない。この落差をそのままにして同じように発言しても女性の意見は取り上げられない。結果、落差の是正がいつまでも図られない。段があるところで同じような声で発言しても段違いのままになっている。
- ・一旦この段差を少し埋めて、その上で発言をすれば、同じように発言したことの効果がでる。この底上げや下駄をはかせをするのが、アファーマティブアクションである。
- ・男女共同参画の分野では過去に女性が差別をされてきた歴史で、地位が低い部分を一旦上げましょうというのがアファーマティブアクションであって、逆差別ではないという整理がすでに何十年も前から行われている。
- ・特に代表的なのが、管理職比率。実際に職場の中で女性の管理職比率が低い状態があり、目標値を決め、とにかく一回女性を登用することで、目標値に近づけ、女性の発言力を高めることが一番典型的なアファーマティブアクションである。
- ・これは差別の解消にも有効な手段で、数十年前から行われているので、女性に的を絞った取組みは逆差別ではない。
- ・むしろ女性に〇〇させる、男性に〇〇をする、と国・県の計画はなっている。これからは男性に何を負わせるのか、女性にどういう風にテコ入れをするのか、焦点を絞って明らかにすることが必要であり、それは決して逆差別ではない。
- ・アファーマティブアクションという差別改善に有効な手段の一環だと理解してほしい。
- ◎ 女性を的に絞った取組みを行うことは「逆差別」ではない

【今回のプランの中に加えた方がよいポイント】P13

最低この3つが今のプランに足りないもの

- ① 男性の育児休業取得促進(育児介護休業法の改正・施行を踏まえて)

- ・少子化を何とかしなくてはならない。
- ・男性の育児休業取得促進はすでに国家的な課題
- ・国全体で男性に育児休業を取ってもらうため、男性がより取りやすい制度に育児休業法も改正が行われ、すでに施行されているので、これは取り入れるべき。

②地域の意思決定への女性の参画促進(例:区長、地域づくり協議会)

- ・県の5次計画にも織り込まれ、地域でも課題が多いと皆さん気付いていて、南砺市では打ち出していくべき視点
- ・「区長や地域づくり協議会の役員にどう女性を入れていくか、目標値をどうするか」と議論されていたが、「区長は無理だ」という論調に第5回でなっていた。「地域づくり協議会の役員も割合まで定めて、会長や副会長とかは無理、ただし、もう少し下の役員だったら半分入れることは出来るのでは」、とか、「防災は無理だ、福祉ならいいけど」と議論があった。そうではなく、防災に女性の力を活かすことは国の計画にもすでに入っている。
- ・今日の北日本新聞の一面にも出ていた。地域の区長や地域づくり協議会の役員をどうしていくのか、今日明日から女性に就いてもらうのは無理があるのは分かるが、このプランは2026年度が目標。その時まで「区長に一人も女性がいないといい」と打ち出しているのか。せめて「これくらい女性の区長がいてもいいのではないか」という打ち出し方があるのではないか。
- ・若い女性が帰ってこない南砺市で、南砺市へ行ったら区長の3分の1が女性というのは地域のアピールポイントに大変有効である。「区長は紙配るだけだから、どうでもよい」ともあったが、紙を配るだけなのであれば、女性を就けてもいいのではないか。
- ・この辺はもう少し、地域を変えるために、区長や地域づくり協議会の役員をどうしていったらよいかをもう一度よく考えてほしい。

③アンコンシャス・バイアスへの気づきの促進と解消(10年遅れの意識を前に進める)

- ・県も打ち出していくし、前にも説明した通り、富山県の平均的な姿から、南砺市の意識は10年遅れている。10年前の富山県平均の状況が南砺市で冷凍保存されている状況で、しかもそのことに気が付いていない市民層が多いのも事実。これを打ち出すことは、有効な表現になる。

◎最低この3つを加えた方がよいと考えるが、加えるべきか、どの程度目標数値に入れるのかは、皆さんで議論してほしい。

【審議会は正しい「外圧」になろう】P14

- ・プランの中身にはあまり触らない形で、進めてこられた。
- ・前文について一生懸命議論したり、南砺市らしさについて何回も議論したり、目標数値はこれでいいのかと主に議論されてきた。
- ・プラン本体を是非見ていただき、少し違和感のある部分について、今のうちに意見を言われた方がよい。

○プランの見直しの主体はあくまでも「南砺市」である

○審議会の役割は見直しにあたって、「市長に対して意見を述べる」とことと位置づけられている。つまり、正しい外圧の役目を果たすこと

○今必要な見直しを行わないと、すでに少し古くなっているプランが2026年度まで延

| | |
|---------|---|
| | <p>命してしまう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の現在の計画も、県の現在の計画も踏まえていない。県の第5次計画も策定されようとしている。 ・2026年度にこのプランを見た時に「何を今さら目標にしているのか」と言われなように今是非いろいろなポイントについて、国と県の改定ポイントや今日私が示した最低限3つのポイントを精一杯議論してほしい。多少、尖ったもので大丈夫。 <p>○市に採用されるかはともかく、幅広に意見を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議会として意見を示したポイントを採用するかどうかは市に任せて、内容についてあとしばらく積極的な議論を重ねてほしい。今の論調のままていくと、市長が意欲的なことを言っていることとも歩調が合わない。南砺市長は各市の市長の中でも結構尖ったことを言っておられるので、皆さんが市長に対してもう少し尖ったことを言って、今のプランが2026年に読んでも「なるほど！」と思えるものになるように工夫してほしい。 <hr/> <p>県の女性活躍推進課長の荻浦 明希子氏より「第5次富山県民男女共同参画計画の策定について」を資料に基づき説明いただいた。</p> <p>※説明資料は別途掲載資料のとおり</p> <p>— 県の荻浦課長は資料の説明後、退席 —</p> |
| (4)付議事項 | <p>渡邊会長より本日の今後の議論の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで議論してきた流れで、須河さんから指摘をされたことが当てはまっていると思う。皆さんの心にあることを優しく表現してしまったのは、使命として違うと思ったので、そういった視点で、この後の審議を進めていきたい。 ・これからのスケジュール等については、いつまで目標とは最初の時には話していたと思うが、はっきり示していなかった。先ほどのご指摘にもあったように、前文をどう扱うのか。須河さんが言われる通り、「市がやること」なので、市長の意思を前にもってくるのは、その通りだと思う。その辺も打ち合わせをして、進め方等も含めてどういった形にするかを別途協議したい。 ・今日は前回のプランの審議が最後まで進まなかったもので、前回の続きで、指標の確認までを今日の時間内、出来れば9時までに確認をしたい。 ・前回まで議論したところを本当はもう一度見直しをしたいが、時間がないので、今日は続きをして、もう一度全体像で表現や抜けているところをしっかりと練り直して、案として提案して、次回以降に審議したいと思う。 <p>— 事務局から送付した資料の説明 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標の×と記載された部分については、男性育休は指標としては必要な部分なので、目標値等改めて検討していきたいと思っている。 |

成果目標指標(P47～P50)の加除修正、R8(R6)年度に向けた目標値の確認に関し、委員からの発言は下記の通り

A 委員：

自治会や区長の女性の率を指標とすることは、確かにいいことだが、それでは「若い女性が帰って来る」ことが外から見えないと思う。

目標を2つ設定したらどうか。議会の議員の割合ではなく、市長・議員の割合にしたらどうか。市長は男性である必要がないので、市長と議会の議員の女性の割合を目標としてはっきり出したらどうか。外から見た時に、議会は外に向けて情報発信されるし、割合も見える。区長が誰かは外から見て分からない。政治分野で達成できていない現実はあるが、そこは目標として今回の審議の中で目標値として入れていくのもいいのではないか。議員だけではなく、議会の中における女性の割合、市長も含めて。女性の割合はどの辺が妥当であるかは難しいところだが、ある程度踏み込んだうえで、区長や下の地域の組織の割合も上げていく方が流れとしてはいいのでは。また、地域にだけ求めて、上の方は男性社会のままなのは変な話なのではないか。若い世代の女性に帰ってきてほしいのであれば、議会の半数が女性だと、「ここ(南砺市)は少し違うのかな」と外から見た時に思ってくれるのではないか。

渡邊会長：

プランの大きい目標として抜けているところを指摘していただいたので、それを入れていかなければいけない。入れるとしたらどういう指標にするか？指標というよりプランそのものに入れていくのか？施策にどういう形で入れていくか？

プランを一つ一つ見直していくのがよいのか？

皆さん大きい視点でお話いただいているので、前回の続きではなく、どこの部分でもいいから、言ってもらうのでよいか？

表現が見直しだからと、結局「南砺市らしさ」のところだけだとなっていた。形として前文になってしまっているが、もちろん前文も改めて加えるべきところや、どんな形にするかは後にして、全体のプランとして、まず大きく抜けている部分があるので、「この見直しで加えるべきところ」から議論していかないと話しが進みにくいのではないかと思う。

今日の話も含めて、このプランに決定的に抜けている点の提案もあったので、そこについての感想とかご意見を言ってほしい。

～～～

気付いたところやどういう風に入れた方がいいとか、何でも結構なので、言ってほしい。

B 委員：

本日の話を聞いて、審議会の中で男女共同参画推進を進めるいくつかの重要なポイントが分かった気がする。地域の中や職場での意思決定の過程において、女性社員が参画すること。富山県は長い間、第二次産業、工場でのライン作業を主とする工場労働者の県であり、特に女性が生産ラインに多くいる。正社員であっても、ライン作業を行

っている方が企業の意思決定に関与することはほぼない。その富山県の産業特性の中での地域社会と職場において、女性の考え方が反映されるようにもっていくことが必要なのではないか。

2つ目として、男性が育休を取ることも大切なポイント。出産後の女性が産後うつにかかることがクローズアップされている。子どもが生まれて2年くらいの間に、夫がどのくらい育児に参加したのかがその後の家族関係、夫婦関係に大きく影響する。社員や地域の若い夫婦がそういう視点で子どもをきちんと産み育てることで、地域社会に関与していくことが非常に重要。今後進めていく指標の中で、職場・地域の意思決定に女性が関与すること、そして先ほど80%の男性育休の取得率とあったが、出来るだけ産業界・経済界に働きかけて、取得率を上げていくことが重要ではないか。

C 委員：

いただいた資料の中で、当局の方で現状は「まだまだほど遠い現状であると分かった」と書かれていたのを読んで、刺さった。ここまでガツンと書いていただいている、前回の議論でマイルドにされたが、よく見る計画の文章としては美しいと思う。あえて当局がガツンと書いたことは活かして、南砺市はまず、意思表示や目標値を高く設定出来るのであれば設定して、それに向かってどうしたら達成出来るのかをみんなで知恵を絞っていく。県の方もそうされると思うので、その方針で思い切ったことをしていって非常に面白いと思う。

A 委員：

議会や政治分野の話をしたが、男性の育児休業の取得率が低い。県の方は8割を目指すが、何が課題なのか。そこが何も整理されていない状況では難しいと思う。実際、女性が育休を取られた時に不便だったことが、男性の場合であつたらどうなのかと考えたらどうか。情報としてあれば、取得率や何が必要なのか少し見えてくるのかも。

自分の会社の男性が育児休業を取得して、心配だったのが給与面で、半年間の育児休業の取得だとその半年間は基本給の65%ほどの支払い(保証)しかなく、その保証で生活は大丈夫なのかと本人に聞いてしまった。何とか蓄えもあったから、と言われたが、そういう部分が引っ掛かりとしてあるのかなと思う。男性からみてそこが取得しにくいと感じる部分で、女性からみた時にどうなのかを聞かせてほしい。

D 委員：

須河さんが言われたアンコンシャス・バイアスについての意見。以前の審議会でも話をしたことがあるが、自分自身はこの南砺市に住んでいて、特に仕事において性差を感じる事がなかった。暮らしていく上でも女性だから損をしている、男性はいいなと思ったことが全くなかった。2年前に結婚をした時に、自分の中に無意識の思い込みがあることに気がついた。パートナーとは結婚しても仕事は出来る、子どもを授かっても上手くやっ
ていけると思って結婚したが、いざ結婚した時に感じたのが、仕事もするけど家事もしないといけない、お弁当は私が作らないといけない、部屋は綺麗に保たないといけない、と誰にも言われていないのに、私自身がそれをすごく感じてしまって、少し上手くないことがあった。その時に夫の方から、家事は別にお願ひしたわけではない、「食事

(家事)は私がやりたいと言ったからお願いしたけど、厳しいのであれば、家事代行ヘルパーさんを有料でお願いしたらどうか」と言われた時に、子どももないのに有料で家事代行を頼んだら恥ずかしいし、そんなことは誰にも言えないし、「女性は結婚したら家事をやらなければいけない」と私自身が思い込んでいたことに気が付いた。

地域づくり協議会に女性が全然いないことや、獅子舞の文化の中で長男が優先、その次に次男、三男と流れがある南砺市のこの現状に、この審議会に参加して初めて気づくことが出来た。

この指標、例えば5番では推進員さんの研修の機会はあるが、推進員ではない方に向けてのアンコンシャス・バイアスに深く気付かせ、深く学ぶ機会がないので、南砺市のイベントや日常の中での機会があればいいのではないかと思う。性差がないと思っていた私自身がとても衝撃を受けたので、いろいろな世代の方が気づける機会をもっと設けてほしい。何かしら個々の指標のキーワードとして入れていただきたい。

E 委員:

アンコンシャス・バイアスの意見が出たが、この会議に出るたびに自分のことを言われている気がして、ここに書いてあることが全く(自分に)重なっている。

結婚したころ、社宅生活で、当然、妻は専業主婦だった。ここで大事なものは、私らの世代がこういう話を知らなくてはいけないということ。

話は変わるが、議員の比率とかは指標に入れたいと思いが、まだ早いかなとも思う。他に確認しないといけない指標がある気もするし、いきなり飛びすぎてもしんどいのではないかな。市がどう考えるのかもがあるが、もう少し考えていきたいと思う。

渡邊会長:

指標にとらわれていて、中身は触らないという認識でモヤモヤしながら進めてきた。基本目標の全体に書き込まれていることはそのまま引き継いで、それを実現するためのプランとか指標とかで推進していくための視点が足りなかったら入れていく、という位置付けで議論してきた。今、お話いただいた中で、加えた方がよいポイントは全くその通りで、政治分野における指標も加えて、委員の方からの視点を入れていくことが必要。

基本目標に書いてあることはプランで評価すればいいが、基本目標の中に触れられていないことについては、拡大解釈をすればいいのかもしれないが、見直しで刺さる言い方をするためには、拡大解釈をしたプランでは駄目だと思う。

これから事務局当局と話をしていくが、スケジュール的にはどのくらいかかるのか。無駄な議論をするつもりはないし、本文の表現のところは最終的にすればいいと思っているが、加えた方がよいポイントや項目に入っていないと思われることはいくつかある。

この5年間で変わってきた情勢やもともと全国的にも低い富山県で最低のスタート地点であることを共有して議論を始めたのに、その差を保ったまま5年後を目指していいのか。追い越さなくてもいいが、最低追いつくための目標を持ち、基本目標の中に新しくこの点を加えたと示さないと刺さる表現が出来ないと思う。

プランを一つ一つ議論していくのでいいのか。今日は時間もないので、まだ意見を言っていない方に思ったことを言っていただいて、この後の議論を進めるためのたたき台を作らないといけない。たたき台としてプランの中に「ここは入れた方がいいのではない

か」と事務局と事前の準備をしたいと思う。今ここで「どうすればいいか」と言っても無理なので、事務局もそれでよければ、今日は時間が許す限り、皆さんからご意見をいただいて、「こういうものを入れた方がよい」とか、どこに入れたらいいのかは分からなくても必要なことを言っていて、それをもとに「変更するところはここにしたい」との提案を次回したいという進め方でどうだろうか。

今までの議論のこともいいので、何でも言ってほしい。

F 委員：

前文の見直しに力を入れ、最終的には「実現には程遠い、不十分な状況にある」としたのは、行政をおもんばかってではなく、アンケートの結果だけで、そう言い切れるのか、が一番のポイントだと思う。ある一部の方の意見であって、全体をみた時に、「不十分」の方が全体の状況としては適当なのではないか。あまり何でも高くすればいいものではないのではないか。

もう一つ、アフーマティブアクションについては確かにこの通りで、最初からそうではないのを、いかに同じように考えないといけないかの部分もある。例えば32Pの「今まで男性中心で運営されがちな家庭、地域、職場の環境において、固定的な性別役割分担は」、この辺はアフーマティブアクションではきちんとなっていない部分で、しっかりと書いた方がいいと思う。「性別を問わず」とか「固定的役割分担を見直す」とかマイルドにした部分だが、明らかに女性の参画を促す表現にしたらいいいのではないか。

C 委員：

「逆差別なのでは」と思われることは、審議の中には多いのかも。逆にアフーマティブアクションとかポジティブアクションともよく言われている。差別ではない。今、差別になっている現状を同じ位置に戻すまでの暫定的な積極的な施策である。国でも推奨されていることをどこかに説明を入れたらいいのではないか。

数年前、南砺市のことではないが、女性の防災士が少ないので、女性にも呼び掛けてほしいとなった時に、「女性に」と呼びかけるのは不公平になる、と市役所の人から言われた。それは違うので、「女性」を付けたうえで、説明文章があれば、もやもやしないのではないか。

渡邊会長：

審議会からの答申のときに、審議会の思い(想い)の中に入れてらどうか。今後検討していく。必要だと思う。

G 委員：

娘の旦那さんが一週間の育児休暇を取得した。高岡のそれほど大きくない会社だが、会社から「法律変わったし、取りませんか」と言われ、取りやすく取った。南砺市にも大きい会社がたくさんあるのに、そこで取れない訳がないと思う。一週間くらいなら給料も有給で出してもらえるとるので、目標は高く掲げてもいいのではないか。

E 委員：

その通りだと思う。

F 委員：

もう1点、政治が一番のポイントで、一番見えやすいところに女性が全くいない。いくら他で頑張っても、迫力がない。この審議会は行政の委託を受けてやっている。行政のカバーできる範囲で意見を答申するのは、逆に可能だと思う。議員の話になると、この場で議員の半分以上女性にすべきだと言っても、いいとか悪いとかではなく、言っても答申に反映されないのではと思ったが、それはいかがか？

事務局：

そんなことはない。皆さんのご意見は貴重な意見として大事に反映していきたい。

F 委員：

議員の数をどうするのかを、市は言えるのか？

事務局：

ご意見としていただきたい。当然、議会の方に説明する必要もあるので、そこでどういった意見があるかは分からないが、それと戦うのは我々の仕事だと思っている。

渡邊会長：

須河さんの話を聞いてごもっともだと思う。むしろ市長も言っていることだが、5年前の時にはジェンダー・ギャップの解消は入っていなかった。検討をする審議会で、市長が言っている以上、市長の一步前のことを投げかけないといけないのではないか。市長には審議会から言われた、と審議会のせいにしてもらう。審議会はそういう役割だと思う。当局も審議会がうるさいから掲げた、でもいいと思う。

目標を掲げるだけは簡単。今年は見直しがあるから中身の議論が出来ているが、この審議会が見直しもない途中の時期は、このプランの進捗状況のチェックの結果を聞いて、目標に届いていない、と言うだけである。本当に審議しないといけないのは、そういう目標でいいのか、その目標をどうやって達成するかをもっと考えなさいよ、と言わないといけないのに、素通りしていた。審議会として今言わないで、いつ言うのかと思っている。市民への意識啓発を併せてしないといけないが、審議会が絵に描いた餅ばかり、と言われぬような会議をしたいと思う。むしろ前文の言い方は柔らかめでもいいから、やっていくことはしっかりとやっていってもらいたい、という位置づけの形にしたらいい。どの点を強化したらいいのか等の意見を、時間が許す限り言っていただければと思う。

須河政策参与より、下記のとおり各委員の発言の整理と助言をいただいた。

・会長さんが「基本目標自体から見直さないと須河さんが加えないといけないと提案したポイントが入らないのではないか」と言われたが、基本目標のⅠからⅤはそれほどいじらなくても(1)(2)のレベルのところをいじれば、今日話しをした3つと皆さんが考えておられる

政治参画の話は入れ込めるのではないか。

・入れ込んだうえで全体を見直しすれば、「今回の見直しで何を見直したか、これを強く打ち出している」とアピール出来る。あまり膨大な作業を考えられなくても、この中のどこにどういう風に入れるかの議論をされればいい。

・男性の育休についての議論があり、「何が課題なのか、給与面も心配になった」とあったが、既に国や県の計画で男性の育児休暇の促進が話題になっている。育児休業法も改正されているので、男性が育児休業を取ろうとするとどういった課題があるかは既に整理されている。給料面だと給与の補填はどうあるべきか、そこに補助金を出すべきか、そうした議論をしていく。

・男の人でも1か月くらい病気で休むことはある。突然1か月病気で休まれるよりは、予定の立つ育休で休む方がかなり簡単なはず。そこは一旦よく考えて、職場がどうあれば男性の育児休業が受け入れられるのかを落ち着いて考えていけば、それほど難しい話ではない。

・男性の育休はどんな目標値を立てればいいのかは、南砺市としてどんな育休を進めていきたいかに関わってくる。1日でも取ったら育休を取ったと整理するなら、1日でも休まれたらそれでいいとのメッセージになる。最低1か月取った人で整理するなら、南砺市としては最低1か月は休んでほしいと思っているとのメッセージになる。育児休業の目標値を立てる時は、どれだけ休んだ場合にカウントするのかを考えて目標値にする。あるいは国や県と足並みを揃えてしまうのも一理。

・政治分野の男女共同参画こそ入れるべきだという意見と、この審議会としては入れるべきなのかどうかという意見と両方がある。国の方でも目標値は計画で出しているが、とても繊細に気を遣って書いているし、とても神経を使った書き方をしている。ただ、目標値でこれくらいはあるべきではないかと示されてはいる。

・この審議会として女性の政治参画をどれだけあるべきだと意見を言うのは全く止められることはない。市民がそこに不満を持っているのは明らか。例えば、3割くらいは女性がいなかったら、我々は不満だと言ってみて、ではなぜそうならないのかを洗い出し、それを潰していくことは市の行政でも出来ることである。

・議員の割合を示さないと外には見えないとあったが、区長の割合を示すことは直接、若い女性には見えなくても、南砺市長は、「南砺市は区長の割合は30%にすることにした」と絶対に外に向かって言われるので、充分若い女性に伝わるメッセージになると思う。

・議員や市長の割合を実行することは自分たちには出来ない事だが、区長の割合は自分たちで出来る事。打ち出して、まずは区長とかPTA会長等から、川下から川上へ、川上で目標値を示す考え方もあるが、川下の方から自分たちで出来るところからどんどん高めて行き、最終的に政治の場に出るといったやり方もある。

渡邊会長：

完璧にまとめていただいた。

~~~~~

C 委員：

区長等の割合を女性 30%にすることは、市としては掲げられるものなのか？

須河政策参与：

実現できるかどうかはともかく、掲げることは出来る。

C 委員：

氷見市で防災の男女共同参画について、掲げていかないといけない時に、市長の方から言ってほしいと会長さんが言うておられたので、市の方に言うと、「市が市民の割合を言えるものではない」という言い方をされた。そのようなことはないのか。「みんなで目指していこう」と打ち出すのはどうなのか。

渡邊会長：

審議会で見直しの中にしっかり入れて、市長にも理解してもらい、市長の口を借りて広報していく。私たちのやりたいこと、目指すことを言っていていただく流れなのかなと思う。

実際には前回の議論の中で「区長は無理だけど、結構女性もやっていることがあるよね。区長はいきなり無理なのは」、など結局私たちがしてほしいと言ったことを先に無理だと言ったことについて、大反省している。

何でも思った通りのことを入れればいい訳ではないが、今までの議論の中で掲げようと思ったことは勇気をもって掲げる方向で、何を入れるかを次回以降話し合っていければいいと思う。見直しなので、大きく変えるのは時間的にも作業的にも無理なので、イメージとしては須河さんが言った通りで、基本目標の数を増やすのではなく、施策の中に入れて、「今回はこれですよ」と強調していく形。今日須河さんに指摘していただいた加えた方がよいポイントは、それを加えるかどうかの議論をして、どういう視点から入れるのかを話していくと作業は進めやすいのかなという気がしている。

このような感じでよいか？

事務局：

自治会長の話もあったが、どちらかというと南砺市は小規模多機能自治を進めている。地域づくり協議会においての部会長さんや地域推進員の数とか、例えば会長の数とかは女性も1名おられるし、地域指導員は女性の数の方が多い。非常に活躍されている協議会もあるので、その辺も特筆していただければと思う。

渡邊会長：

前回の前からも会長・副会長は指標に入っていて、部長も入れた方がいいとなっていて、それ以外に役員も入れたらどうなのかが前回までの話に出ていた。区長にするのか、どこまでにするのかは、次の、もしくは事務局当局の方で提案していただければ。

須河さんにはいろいろとご指導いただき、今日もまとめていただいた。今後もよろしくお願ひしたい。

閉会の時間が過ぎたので、今回の議論は終了

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | 事務局より:次回までに全体の素案を事務局で考えて提示する。審議の今後のスケジュール(延長)についても次回示せるようにする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| (5)副会長あいさつ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・南砺市が持っている課題について、明らかになってきた部分が多かったと思う。</li> <li>・田中市長が言われているように、ジェンダー解消や年頭の新聞記事での「若い女性の流出をどうするか」の事柄について、男女共同参画推進プランの進展によって、大部分を更新・解決できるのではないか。</li> <li>・働き方改革における女性活躍や、地域や職場において女性が意思決定に関わること、そしてその事柄の比率を上げていくことが重要。</li> <li>・男女共同参画について考えていくには、南砺市長や市役所の中では特に子育て世代の担当課であるこども課と職場については商工課、そして地域づくり協議会の方たちと連携していくことが今後必要だと思う。その点を推進プランの中に加えるのはどうだろうか。</li> <li>・少し審議会自体が遅滞しているように感じられたかもしれないが、より良いものを次の第3次に繋げるために、今が正念場だと思う。</li> <li>・今後とも皆様と良いものを作りたいと思うので、ご協力をよろしく願いたい。</li> </ul> |
| (6)その他     | 次回の開催は委員皆様のご都合もお聞きし、改めて案内                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| (7)閉会      | 午後9時10分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |